

那須連山流石山 苦土川支流井戸沢遡行報告

【遡行日時】平成 25 年 6 月 2 日(前夜発)

【山 域】那須連山流石山 苦土川・井戸沢

【メンバー】CL 上茂、SL 渡辺(三)、辻本、岩元、神山、大塚、加藤、富樫(富)、尾高、古関、

【行 程】林道ゲート(8:00)～井戸沢入渓点(9:00)～1400m二俣(11:30)～登山道(13:30)
～林道ゲート(17:00)＝帰葉

梅雨が始まり、那須方面は傘マークが開いた。午前中だけの小雨と判断し、CL に決行を進言。一路、東北道を那須に向かった。

仮泊場所の明治の森黒磯は、夜が明けると共に鳥の音がうるさい。小宴会を済ませシェラフに潜ったのが午前2時。6時起床7時出発の予定なのに、5時過ぎには鳥のさえずりに起こされる。

黙々と朝食、着替え、体調の整えを済ませ、7時前には出発する。

板室街道を板室温泉～深山ダムと進み、ダートロードに車底を擦らせて、ゲートがある橋の手前で車を停める。ここから井戸沢の入渓点までは一時間強。

途中の三斗小屋宿では、流石山に突き上げる井戸沢が見える。溪筋は白く光っている。雪渓だ。「今日は大変だ。雪渓処理に時間が掛かるぞ。」とモノローグ。



さあ、行くぞ！



三斗小屋宿 遠くに流石山



貧相な入渓点で沢支度



堰堤を下りる

堰堤より下は水が無く、貧相なゴーロで沢支度。7分ほど枯れたゴーロを歩き、ログハウス調の堰堤に着く。堰堤の右岸に虎ロープがあり、これに体を預けて沢床に下りる。普通、堰堤上は水が貯えられているのだが、伏流水となり、堰堤で消えている。地下に取水口があり、どこかに流しているのだろう。おかげで15m滝までの下流部は貧相である。

唯一、ザイルを出す15m滝に着き、いつも通り左岸のリッジにCLがザイルをセット。各自ユマールで登る。2年前ここを登った際、左のガレ枝沢からトラバースした人がいた。我々が滝の落ち口で立っていると、右岸の斜面からザッザッザーと落ちるように滑り降りてきた。沢靴ではなく登山靴のまま。地図も持っていないので、これから滝だらけだよと忠告をした覚えがある。



井戸沢は3m滝から始まる



15m滝は右のリッジを登る



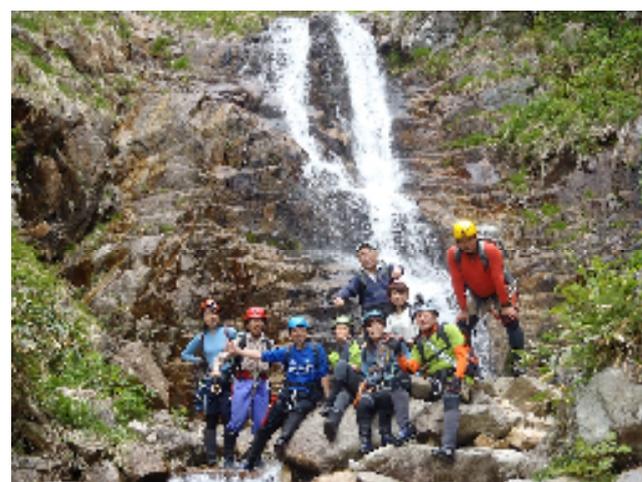
快調に遡行する



ベテランも頑張る



滝のスリルを楽しみながら登る



大滝前で記念ショット

15m滝を過ぎると、フリーで登れる滝が続き、明るい溪相に心が躍る。5m、2m、3mと続く小滝は、いつも後ろでヒーハーするベテランKさんが、果敢にトップで登攀。楽しい冗談が飛び交う。

15mの滝は右が階段状だが、最後が嫌らしそうなので、CLがお助けザイルを流した。新人と言えるのは二人だが、三ちゃんのアドバイスを元にスイスイと登って行く。

1400mの左俣は雪溪がビッシリ。右俣にルートを取るが、程なく危惧していた雪溪が出てきた。ここは開豁な滑床で、記念の1ショットを撮る場所のはずなのに、今日は雪の下。沢靴でキックステップを切り、笹掴みで左岸を登る。

次々と雪溪が現れ、時には草付き、ザレ壁に逃げ、腕力に頼った登攀は厳しい遡行となる。

1450m辺りで、右岸の急傾斜のガレ場を登るが、「ラクッ！ラクッ！」の絶叫が飛ぶ。

やっと辿り着いた小尾根は腰くらいの笹ヤブで、遥か上には蜜藪が見える。SLが再びガレ沢に逃げようと、笹ヤブをトラバース。根元に足先を突っ込まないと、フェルト底では滑りやすく、腕力と体力が消耗する。



1400m上で雪溪が・・・



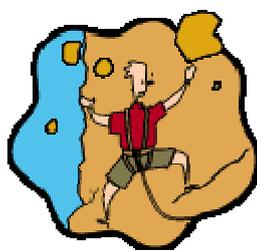
笹掴みで雪溪を登る



雪溪を避け、ガレ場を登る



ヤブを行く



やっと登山道に辿り着くと、もう腕はパンパン。息も上がっている。それでも安堵からかジョークも出る。グルッと見渡すと那須連山の雄大な眺望が、心を癒してくれる。予定より1時間以上の遅れだが、ワイワイと下山を急ぐ。峠沢下降を計画しているため、沢靴を履いたまま。下山時間が押しているにも係らず、道の両側に広がる笹藪に分け入り、根曲がり竹を採る余裕もある。

峠沢に着き、沢を下降するか、登山道を下山するか鳩首会談。

水量が多い、下山時間が残されていない、メンバーの多さ等を考慮して、そのまま道を下山。

苦土沢の渡渉を終え、靴を履きかえる。林道ゲートに辿り着いたのは丁度5時。

前回同様、幸の湯で入浴。沢の匂いを消し、一路、帰葉を急いだ。



足を滑らせながら、ガレ場のトラバース



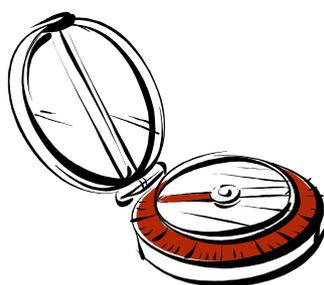
登山道はもうすぐ



もう、ヘロヘロ



登山道に着き、ホッとする





切り立った三倉山



流石山山頂にて



稜線に湧き上がる雲



やっと下山した

